

## 全日本ライフセービング選手権大会・本戦出場枠（本戦出場枠）の考え方について

本件は、第 2020-S017 号「全日本ライフセービング選手権大会・本戦出場枠の考え方について」(2021 年 3 月 29 日付け) で発表した内容をもとに、2024 年度第 50 回大会向けに修正を加えたものである。基本的な方針は、以前のものから変更はない。2023 年度第 49 回大会の要項から、今回新たに変更を加えた箇所は **黄色** の網掛けで示す。

### (1) 全日本ライフセービング選手権大会・本戦（以下、「本戦」とする）の実施方法

- ① 準決勝からの実施を基本とする。
- ② 2024 年度第 50 回大会にあっては、全ての種目において（少なくとも）準決勝からのスタートする（本戦一発決勝の種目は無い）。
- ③ 競技者の数を考慮し、以下の競技に限り準々決勝からのスタートとする。
  - i. サーフスキーレース（男子）
  - ii. ボードレース
  - iii. ビーチブラッグス
  - iv. ビーチスプリント
  - v. ビーチリレー

### (2) 2 種類の本戦出場枠

本戦出場枠は「基本枠」と「獲得枠」の 2 種類に分け、各ブロックに配分する。

- ① 基本枠：本戦出場枠の 1/3 程度を、原則として均等配分する。
- ② 獲得枠：本戦出場枠の 2/3 程度を、実力に応じて配分する。具体的には種目ごとに、前年の本戦で獲得したポイントの比率に応じて配分する。獲得ポイントは競技者の成績に応じて、その所属するブロックに付与される。獲得ポイントは以下の通りに定める。
  - i. 決勝進出した競技者もしくはチーム： 1 ポイント
  - ii. 8 位入賞した競技者もしくはチーム： さらに 1 ポイント（合計 2 ポイント）

### (3) 本戦出場枠の調整

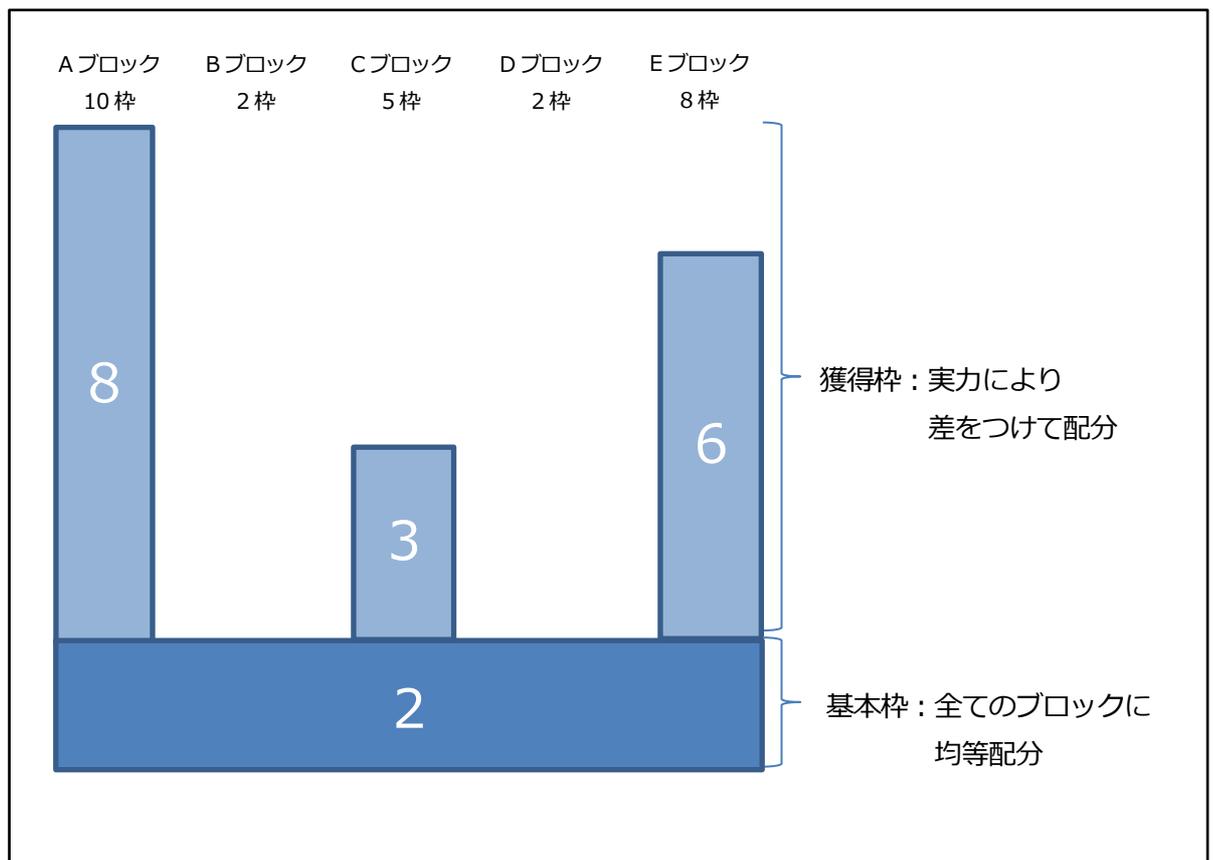
- ① 本戦出場枠が極端に一部のブロックに偏る場合には、基本枠の数を加減して割り振りの全体バランスを調整することがある。
- ② 決勝の人数が少なく、準々決勝からスタートしている種目に関しては、準決勝から 1 ポイントを付与する。
- ③ 競技者を本戦に出場させる意思のないブロックの基本枠は、獲得枠として他のブロックに再配分される。
- ④ ブロックが競技者を本戦に出場させるつもりで申請を行ったが、本戦出場者を選出できなかった、もしくは本戦出場枠を満たせなかった場合、そのブロックの翌年の基本枠は減らされる。ただし基本枠の下限は 1 とする。

- ⑤ 「④」の基本枠を戻したい場合、その年に割り当てられた基本枠全てを満たすことで、翌年度から元の数に戻すことが認められる。

(4) 本戦出場枠その他

- 獲得枠の配分比率算定に参照する前年の大会が中止だった場合には、必要に応じて参照可能な年まで遡る。一部の種目のみ中止の場合には、該当種目のみ遡る。
- 競技者が獲得したポイントは、獲得した時点で所属しているブロックへの付与とする（競技者がポイントを獲得した次の年に所属クラブを変更して出場ブロックが変わったとき、獲得したポイントはブロックをまたいで移動できない）。
- 本戦出場枠の端数の処理
  - i. 獲得枠を比率に応じて配分を計算した際、小数点第一位の大きいブロックから優先して、端数の枠が配分される。
  - ii. ポイント数が同じ場合、8位入賞した競技者もしくはチームの数が多いブロックから優先される。
  - iii. ポイント数が同じで、8位入賞した競技者もしくはチームの数も同じ場合、その種目の最高順位を獲得したブロックから優先される。

(図1：本戦出場枠 割り振りのイメージ)



## 本戦出場枠の割り振りと、本戦出場者の選出スケジュール（予定）について

- ① 7月中旬迄： JLA が9ブロック全体への割振を前提とした本戦出場枠一覧を公表。
- ② 8月上旬： ブロックが JLA へ全日本選手権出場的意思を示す。
- ③ 8月中旬： JLA が「②」を受けて修正した本戦出場枠一覧を公表。
- ④ 9月下旬： ブロックが JLA と傘下クラブへ本戦出場者名簿を提出  
クラブが JLA へ本戦エントリー費を支払う

### (5) 本戦出場者の選出について

- ① 競技者を本戦に出場させたいと考えるブロックは、それぞれの責任において本戦出場者を決定する。
- ② 本戦出場者の決定は、JLA の定める A 種認定競技会を取得した予選会によるものが望ましい。ただし、ブロックの運営体制が整わない場合には公平な選出が実施できれば良いものとし、現時点では予選会の形にこだわらない。
- ③ 各ブロックは、本戦出場にふさわしいライフセーバーであり、競技者である者を、本戦出場者として選出すること。
- ④ 日本代表として国際大会に派遣される競技者が予選会に出場できないおそれがある場合、その競技者をどう扱うかは予選会の主催者に判断を委ねる。
- ⑤ 予選会の時期は各ブロックに一任するが、JLA への本戦出場者名簿提出の締切日に余裕を持たせることと、JLA 主催競技会と日程が重ならないように考慮すること。

### (6) 予選会への中学生の受け入れについて

- ① 2024年4月1日発表の「2024年度 競技会運営方針について」  
<https://ls.jla-lifesaving.or.jp/news-lifesaving-sports/20240510-18263/>  
に記載のある通り、『中学生の全日本選手権および種目別選手権への参加について』を原則とする。この条件を基本に、各ブロックにおける予選会への参加を受け入れること。
- ② 但し、安全管理体制含めて最終的な受け入れの可否は各ブロックに委ねるものとする。

### (7) 本戦出場枠の設計のねらい

- ① ブロックごとに基本枠を割り振ることで、地方からの参加を促し、日本全体でライフセービングスポーツ振興を図る。
- ② 予選会を各地で奨励することにより、ブロック内における都道府県協会の連携・交流を強め、その競技会運営能力を高め、ライフセービングスポーツを楽しむ機会を増やす。
- ③ 競技者が本戦出場枠を獲得することでブロックに貢献し、ブロックは他のチームの競技者も応援する。このような応援を促すことで地域交流を振興し、ライフセービングを盛り上げる。
- ④ エントリー数と実力が比例しないブロックで発生していた、本戦出場枠のブロック間における不公平さを、本戦出場枠を獲得するところからの競争とすることで解消していく。
- ⑤ 決勝に進出する価値、8位までに入賞する価値を高めることで、競技会を盛り上げる。